
中北海道地区

会長 五十嵐秀彦

◇令和5年度俳句研究交流句会（組織活動部）

令和5年度は「かでの2・7」にて開催した。参加者は36名、このうち初めての参加が10名、前年より7名多い句会となった。投句数は40句、特選1句・並選6句を参加者全員が選句し選評する機会を得るよう司会進行した。以下に秀句として評価された句を掲げる。

甘酒の冷えてきりつと樹木希林	金子真理子
父吊りて父の音となる貝風鈴	中田真知子
葬の家裏に水着の干されみて	近藤由香子
振花のぐりぐり登ってゆく空よ	阿部 満子
人間の図鑑読み終へ夏薊	島崎 寛永
万緑に溺れてをりぬ午後の耳	小路 裕子
濡れている砂漠は水羊羹のなか	青山 酔鳴
不確かなたまごの中の昼寝覚	吉田 貴蘭
奔放はサガンの砦夏の砂	F よしと

◇第24回中北海道現代俳句賞選考委員会（顕彰係）

令和6年1月27日、「かでの2・7」にて選考委員会を開催。選考委員5名により各々選評を出しあい議論の後投票で決定した。本年の応募数は14篇、この内2編が初応募、5回以上の応募者は8名、2回から4回の方が4名いた。会員外の応募者は2名。力作揃いの作品からの選考となった。結果は安田中彦氏の「祝 祭」が受賞した。

受賞作「祝 祭」20句より。

陽炎のやうな私に現住所
魂とポプラの絮の飛び日なり
二枚の掌原爆の日の蚊を打てり
祝祭のやうに雪ふる鹿の死に

◇令和6年度年次総会

令和6年2月3日、「かでの2・7」において開催した。出席者23名、委任状64名の合計87名の議決権のもと各議案の審議を行ない、総会員数108名の過半数を超える賛成を得て、令和五年度の事業報告・決算報告・令和六年度の事業計画・予算案について可決承認された。

◇第33回中北海道現代俳句大会

令和6年4月7日、札幌市内の「かでの2・7」において開催された。参加者51名。講演は東北北海道現代俳句協会会長の石川青狼氏。「河東碧梧桐の俳句と書字」の演題で、碧梧桐の書体の変遷などの資料を示しながら彼の書の高い前衛性を生き生きと蘇らせる内容であった。

俳句大会の出句は111名、448句。入賞作8句と佳作15句が選ばれ、講評・顕彰が行われた。次に令和5年度北海道俳句協会鮫島賞を受賞した当協会会長の五十嵐秀彦氏への花束贈呈、第24回中北海道現代俳句賞の安田中彦氏の顕彰と受賞の挨拶、花束の贈呈が行われた。大会終了後ホテルポールスター札幌にて、懇親会を行った。37名の参加があり、各々が親しく語

り合い約2時間の懇親の場を楽しんだ。
俳句大会で大会賞他を受賞した上位の五作品をあげる。

第33回中北海道現代俳句大会入賞作品

落葉踏む夫とは違ふ音立てて	関根 礼子
星月夜ずしりと恐竜凶鑑かな	中田眞知子
雪虫の漂う辺りいつも過去	永野 照子
悴むやこゑが固体になる朝	近藤由香子
反戦の首が折れさう秋さくら	内野 弓子
帰る家あるにはあつてちゃんちゃんこ	阿部 満子
雪積もるくちびるのなき街に棲み	橋本 喜夫
標本のピンの数だけ虫の闇	平尾 知子

◇2024年1人1句集の発行

令和6年4月2日発行。今年の参加者は九五名。毎年の発行が継続されている。

◇幹事会・会報

期間中の幹事会は6回。

会報第98・99・100号発行。

(F よしと)

東北海道地区

会長 石川 青狼

◇第21回大とかち俳句賞全国俳句大会

令和5年9月24日(土) 帯広市とかちプラザ

〈課題句「牛」の部〉722句

トーチカの海霧へざらつく牛の舌	粥川 青猿
夏野に砲声首水平に牛立てり	吉野喜代子
八月や牛の重みがちょうどいい	清水 健志

〈雑詠句の部〉758句

蝦夷栗鼠のらせんの夏を駆けあがる	菅原 釈子
もっと緑雨を今から恋が生まれるの	よしぎね弓
形から入る一輪紅い薔薇	村川三津子

◇釧路現代俳句会墨書展

10月9日(木)～11月16日(木) 釧路市プラザさいわい

出品会員数12名、展示作品数15点

◇第75回釧路市芸術祭市民俳句大会 10月22日(日) 市立図書館

百歳を見据える歩幅天高し	山田美智子
生きる予定ばかりの手帳今年酒	菅原 釈子

◇第34回東北海道現代俳句協会総会

令和6年4月21日(日) 釧路市生涯学習センター

会員数34名中、出席16名、委任状提出14名

◇第30回東北海道現代俳句大会

同日、総会に引続き俳句大会を開催

○講演「碧梧桐と幣舞（へいぶ）会」

講師 東北北海道現代俳句協会会長 石川青狼氏

○顕彰 第六回東北北海道現代俳句協会大賞 粥川 青猿

第三回東北北海道現代俳句協会功労賞 吉田 洋子

同 賞 松原 静子

○俳句大会 投句総数288句、大会出席31名、懇親会23名

退屈な電話ボックス日脚伸ぶ 小宮 富子

お降りや母いなくても母の家 岡本 順子

はらわたへごつんごつんと寒の水 粥川 青猿

略地図のなにもないところは蒲公英 菅原 稔子

◇第33回北海道現代俳句大会

6月9日（日） ホテルリソル函館 506句、出席38名

佳作賞 煮凝りに深海の闇滲みだせり 江波戸 明

◇釧路現代俳句会吟行会 6月20日（木）温根内ビジターセンター

青水無月のだ真ん中なる一人かな 寺田 保子

木道に結界ありて老鶯 小飼 紫香

◇会報発行

第16号（7月）、第17号（1月）

（鮎橋郁香）

南北海道地区

会長 佐藤日和太（令和6年7月より）

会員の減少が著しいが、時代の流れもあり、コンパクトさをプラスに転換できるような取組を今後模索していく必要がある。

◇会報発行

令和5年12月28日、第34号発行

◇総会

令和6年3月20日実施。当地区は、交通の便も悪く、高齢化も進み、一堂に会して総会をすることが困難なため、例年通り紙上総会としました。

◇第33回北海道現代俳句大会

令和6年6月9日 会場 ホテルリソル函館

北海道内四地区から約40名が参加。事前投句による応募句数は506句でした。函館駅前にある「ホテルリソル函館」を会場に盛大に行われました。都賀由美子北海道現代俳句協会連合会会長の挨拶のあと、対馬康子氏（現代俳句協会副会長）を講師として迎え、「斌雄・青邨・朗人—こころの高まり」という演題で講演を賜りました。その後、表彰と講評があり、次期当番地区である東北北海道現代俳句協会会長石川青狼氏の挨拶で、今年度の大会は終了し、その後、懇親会では、楽しく対馬康子先生と語り、道内各地の俳友との俳縁を深めることができました。

北海道現代俳句賞

明日からもずっと老人桃の花

江別 長野 君代

函館市長賞	札幌	永野	照子
逃水を追ひこさぬやう霊柩車			
函館市教育委員会賞	旭川	秋葉	礼子
薔薇散って君の骨片紛れ込む			
NHK函館放送局賞	札幌	平尾	知子
夜焚火や縄文人の顔となる			
北海道新聞函館支社賞	札幌	金子真理子	
雪のふる町どこからも遠い町			
函館新聞社賞	函館	高山	京子
山笑ふポンと開きたるジャムの蓋			
函館市中央図書館賞	比布	村	一草
いちにちを容易にくづし冷奴			
解俳句会賞	札幌	加藤	由花
指揮棒の終の一振り春の雪			

(佐藤日和太)

北北海道地区

会長 橋本 喜夫

◇第35回総会

令和6年4月14日(日) 旭川市ときわ市民ホールにて開催。

出席者30名

◇第34回北北海道現代俳句大会

令和6年4月14日(日) 総会終了後 旭川市ときわ市民ホール

講演 中北海道現代俳句協会 松王かをり

演題「藤谷和子を語る一戦後俳句をめぐって一」

出席者30名(出句60名)

大会賞はじめとする高得点の作品

冬の夜民話のように妻といる	佐々木	宏
木の根明く相席してもよいですか	石川	美智子
時に死はふんわりと来る波の花	斉藤	郁子
答えなどなくていいかも春の海	小泉	晃治
多喜二忌や0番線の消ゆる駅	増田	植歌
海鼠腸やその夜真紅の夢を見る	橋本	喜夫
囀ついでくるハイヒール脱いでおく	秋葉	礼子
鳥帰る特急宗谷とは分かれ	村	一草
見つめれば見つめ返してくるパンジー	八田	昌代

◇吟行 実行なし

◇顕彰 該当者なし

(加藤ひろみ)

青森地区

会長 千葉 芳醇

◇令和6年度総会

令和6年5月12日 青森市文化会館で開催された。参加人数20名。

◇青い森県民俳句大会

令和6年5月12日、総会に引き続いて開催された。

投句者164名 当日参加者92名

兼題賞 始業ベル土筆握りしまま駆ける

竹浪 誠也

兼題賞 戯れて風は矢車置いて行く

清水山査子

◇第14回秋の吟行互選俳句大会

令和5年11月18日、青森県五所川原市民センターで開催された。

吟行地は、同市の芦野公園。参加者は20名。

① 歌碑句碑のほとんど読めず落ち葉雨

吉田 昼顔

② 揚げ置きし舟に雨積む枯葉積む

中澤 礼子

③ 吊橋の軋みに止む着ぶくれて

佐藤いく子

④ しぐるるやふるきものみなうつくしく

川口 刃心

⑤ 冬蠅の乗車拒まずメロス号

対馬 迪子

⑥ 太宰像枯野の中に立ち尽くす

鈴木とまと

⑦ 魯田や津軽訛のアテンダント

大瀬 響史

◇発行物

令和6年1月、青森県現代俳句協会会報19号を発行。

令和6年6月30日、同20号を発行。

令和6年5月10日、2024年版青森県現代俳句年鑑を発行。会員の作品64編を掲載。作品から顧問、会長の5名で年鑑賞を選考。

今年度は、坂本吟遊が受賞。

金星丘

継当をせめて明るく縫初

建国記念日英字ばかりの書道展

日のひかりゆるりと参る雛座敷

眼で責める尾でたしなめる猫の戀

すべては水すべては空や流れ海苔

春闘やレモンドロップ噛み砕く

紙風船金星丘を離陸せる

陰毛も抜け落つるもの原爆忌

(大瀬響史)

岩手地区

会長 名久井清流

◇盛岡国際俳句大会の吟行句会にて名久井会長が講師

令和5年7月8日市民14名／令和6年6月30日市民14名

◇冬季俳句会

令和5年11月22日 参加者18名

各選者特選句・互選高点句

⑨	連らなりて牡蠣は青空見ただろか	田代 節子
⑨	杏子 道 兜太を探る文化の日	中野 楓子
高点句	寒北斗延長保育室点る	四戸美佐子
高点句	天辺は鳥の領域柿残す	安部 克詠
高点句	引出しの底の小刀憂国忌	鎌倉 道彦

◇令和6年度総会・俳句会

令和6年3月25日参加者17名

各選者特選句・互選高点句

⑨	三・一一転がりたがる万年筆	安部 克詠
⑨	廃校に鉄棒残る榛の花	新山のぼる
⑨	電線を転げ落ちたる恋雀	新山のぼる
⑨	豚の乳ほどのふくらみ牡丹の芽	小野寺東子
高点句	生きてゐる証に雪を搔いておく	新山のぼる
高点句	村十戸丸ごと抱へ山笑ふ	澤藤はなの
高点句	霾やサイレン唐突に終はる	岩井 辛夷

◇第8回通信句会

令和6年4月参加者28名

各選者特選句・互選高点句

⑨	手紙書く浅蜷が砂を吐くように	夏谷 胡桃
⑨	春満月誰とも比べない暮らし	四戸美佐子
⑨	三月の風や歪な握り飯	上野 方水
⑨	陽炎を抜けてムンクの顔となる	名久井清流
⑨	AIの硬き声音や霾ぐもり	さいとう白沙
高点句	一人分空けて誰待つ花筵	安部 克詠

◇地区の大会受賞作品

第62回平泉芭蕉祭全国俳句大会 岩手日報社賞

今昔の夢を転がしほととぎす

三浦 寿子

第76回岩手芸術祭文芸祭俳句大会 奨励賞

新刊の帯を外してより夜長

四戸美佐子

第37回現代俳句東北大会募集句 秋田県現代俳句協会賞

轉りをたつぷり吸ひし薪を積む

五日市明子

※その他の受賞作品については会報誌参照。

◇会報「現代俳句いわて」No.81（令和5年12月15日発行）

内容 令和5年度総会記、句会作品抄、会員の今年の一句とコメント、大会受賞作品抄、新会員の作品と所感、村谷龍四郎氏追悼他

（五日市明子）

秋田地区

会長 森田千枝子

◇「俳句を語る会」の実施（7月22日）16名参加

雑詠一句、読込「海」一句を投句。全員で意見・感想等を述べあった。

◇令和年度第29回秋田県現代俳句協会作家賞

応募作品（15句）7編。審査員6名（12月17日）

作家賞 「くすくす」 片倉 弓
準作家賞 「一滴」 岸部 吟遊
入選 「冬の薔薇」 柴田 悦子

作家賞受賞作品より三句引く
芒に風何もなき日のお赤飯
木の実落つポケットのないワンピース
りんご挽ぐすつかり空気入れかはる

◇令和6年度定例総会（3月9日）

会報95号発行

役員改選、事業計画等、承認される。会員数52名

◇第39回現代俳句秋田大会の実施

投句244句（3月9日）

堅阿彌放心選 特選

白鳥来るとどこへも行けぬ兄に来る
搾乳の牛のふりむく初日かな
熊眠る光る体のやわらかさ

佐藤二千六
浅野 法子
片倉万葉子

片倉 弓選 特選

佐保姫の途中下車です駅ピアノ
履歴書に持病書こうか冬木の芽
広島忌水に躓くことのあり

五代儀幹雄
向田久美子
柴田 悦子

藤原貢太郎選 特選

水の音血のめぐりだす拓地春
点滴器連れて白鳥待つ五階
空け放つ母の部屋にも初暦

田村 陽子
五代儀幹雄
齋藤みどり

現代俳句協会賞

凍滝のでこぼこ父の気骨かな

加藤 昭子

秋田県現代俳句協会賞

片言を覚えて桃の日の主役

布施 鷹夫

秋田県芸術文化協会賞

見かけほど強気ではなしラ・フランス

船越 みよ

秋田県俳句懇話会賞

搾乳の牛のふりむく初日かな

浅野 法子

秋田県現代俳句協会賞（他12句）

九条を論じ炬燵の脚喧嘩
十二月八日の目玉焼きいびつ
頑固さにまだまだ余力枝打す

須田亜希子
佐藤二千六
大川 悦子

◇第31回秋田県吟行俳句大会の実施

13名（6月16日）

（エリアなかいち、千秋公園他）

高点句賞一位 咲く力溜めて静寂蓮の池
二位 緑陰に影を忘れてまた戻る

藤原貢太郎
森田千枝子
（片倉 弓）

宮城地区

会長 渡辺誠一郎

◇研修会

実施日：令和5年7月30日 参加者数：20名

研修名：夏季研修会

会場：仙台市青葉区中央市民センター

内容：『俳句旅枕一みちの奥へ』の視座「東日本大震災十二年が過ぎ」と題した渡辺誠一郎氏による講演。

テーマは、震災の俳句を詠むということ、震災体験を踏まえて取り組んだこと、東北六県の旅から見えてきたこと等。

講演後、2句出しの句会を開催（席題、二番町（丁）・門）。

（高得点11句）

7点	みんなの声遠く聴く二番丁	星 節子
6点	二番丁通りの古書肆水打つて	坂内 佳禰
6点	砂灼けて鬪牛場の堅き門	田村 恵子
6点	留守中の交番大暑の二番町	小田桐妙女
6点	門限はなけれど虫のすだくなり	庄子 紅子
6点	炎昼のビルは魔神よ二番町	嶺岸さとし
5点	二番丁猛暑の中の旅枕	大坂 宏子
4点	校門の鎖されてゐたる炎暑かな	浅川 芳直
4点	禅寺の大門潜る白日傘	日下 節子
4点	門柱のなき炎天の文化横丁	坂下 遊馬
4点	補聴器に紛れ込む蟬二番丁	丸山千代子
	百日紅騎馬武者住みし二番丁	平山 北舟
	山神は女神なるかな葛の門	鈴木 隆
	狛犬と並ぶ日傘や仁王門	大久保和子
	門を出て暑さ百倍のうぜんの赤	新藤 綾子
	運動会出番少なし退場門	菊池 修市
	かなかなの止み門前に朝日さす	佐藤 みね
	ベートーヴェン流る日盛の二番町	小野寺みち子
	校門脇の店に氷旗ありしころ	伊澤てつを
	夕虹や復元されし南大門	佐々木和子
	夏蝶の二番町より目を開く	渡辺誠一郎

◇第37回現代俳句東北大会

大会は令和5年9月17日に福島市で開催。（投句数1,011句、うち宮城178句）

記念講演「生きた俳句、生きていく俳句」（講師 神野紗希氏）

（地区会員入賞者）

▽秀逸賞	万緑や廃炉作業は闇の底	小野 道子
	トランポリンの一人は夏雲に乗る	嶺岸さとし
▽佳作賞	栗の花茶箱に父の従軍記	丸山みづほ
	「死ぬなよ」と帰省の奴が戻りゆく	水戸 勇喜

- | | | |
|-----------|--------------------------------|----------------|
| ▽中村 和弘特選 | 少年の出口はいずこ山背風
巨大デブリ居座る廃炉梅雨の闇 | 佐藤 みね
嶺岸さとし |
| ▽高野 ムツオ特選 | 呼ばれたるやうに雨降る植田かな | 大久保和子 |
| ▽小林 貴子特選 | 水痕のように消えない夏の恋 | 佐藤 成之 |
| ▽後藤 章 特選 | 呼ばれたるやうに雨降る植田かな | 大久保和子 |

◇定時総会

令和6年3月24日、仙台市生涯学習支援センターにおいて開催。
 会員26名が参加、事業報告・事業計画等について満場一致で承認。
 総会終了後、席題による句会を開催。(席題「馬酔木」「春祭」)

(高得点8句)

- | | | |
|-----|----------------|-------|
| 10点 | 廃校の動かぬ時計花馬酔木 | 丸山千代子 |
| 9点 | 馬酔木咲くかつて女系の大所帯 | 黒河内玉枝 |
| 8点 | 転勤の我も担ぎ手春祭 | 伊澤てつを |
| 6点 | 馬酔木咲く午後開店の古本屋 | 佐々木和子 |
| 6点 | 焦げ臭き男交じりぬ春祭 | 鈴木 三山 |
| 5点 | むずむずと人に会いたし春祭り | 大槻 泰介 |
| 5点 | 馬酔木咲く子ども文庫の低き窓 | 成田 一子 |
| 5点 | 更地ゆく子供神輿や春祭 | 平山 北舟 |

◇会報発行

宮城県現代俳句協会 NEWS 2024.1 No.49

発行内容：・夏季研修会レポート

『俳句旅枕一みちの奥へ』の視座 東日本大震災 十二年が過ぎ」

- ・イマココ現代俳句一統・詩歌の音楽性
- ・俳句の肉声と肉筆は rock たるや！—美術館 rock

(坂下遊馬)

山形地区

会長 大類つとむ

◇役員会並びに総会

- ・役員会 5月27日(山形市民会館)
- ・総会 5月27日(山形市民会館)

◇会報の発行

- ・第28号発行 7月
- ・第29号発行 12月

◇俳句会

- ・総会時俳句大会(5月27日) 21名参加

高点句

- | | |
|-----------------|-------|
| もう会えぬ人に会えそう花の闇 | 佐竹 伸一 |
| 裸婦像を冬日に曝しホテル閉ず | 東海林光代 |
| ひらがなに生きて長寿や猫柳 | 渡辺 竹女 |
| 原野とは捨て田捨て畑きぎす行く | 大志田勇志 |
| 車椅子よりでかでかと夏帽子 | 須藤 結 |

一病を得て人やさし鯛釣草
口閉ざし拳握る子山法師
花著莪や力抜く術知ることも
手をあげて合図をくれし入学子

畠山カツ子
佐竹 伸一
木嶋 玲子
柏崎 青波

◇吟行会

・鶴岡公園周辺 (11月11日) 6名参加

高点句

花柎老いてその葉のまろやかに
白餅のごとく白鳥蹲る
落葉風孔子の廟をとり囲む
珍しき犬に曳かるる七五三
全天の黒雲迫るほどに雪
くわりんの実徂徠の教へ脈々と

堀 尚子
佐竹 伸一
井上 康子
堀 尚子
佐竹 伸一
阿部 雅子

◇その他

- ・大会助成事業
山形県少年少女俳句大会(尾花沢市主催)への助成
- ・第37回現代俳句東北大会(福島県担当)へ5名参加

(佐竹 伸一)

福島地区

会長 春日 石疼

福島県現代俳句協会は令和6年6月現在、40名の会員が俳句作りを楽しんでいる。

令和5年度の最も大きな事業は「第37回現代俳句東北大会」を福島主管で9月17日に開催したことである。東北では4年ぶりのリアル大会とあって、全国から1011句が寄せられた。当日は神野紗希本部常務理事を講師に「生きた俳句、生きていく俳句」と題した講演があり、ウクライナの俳句・東日本大震災後の俳句・若者の俳句などが語られ、約80名の参加者に大きな感動を与えた。なお大会での上位賞2句は、福島県いわき市の平子玲子さんの句がダブル受賞の快挙となった。

花野より淋しい鬼を連れ帰る 平子玲子
草刈りの気のすむまでといふ区切り

また、学生投句を無料とし170句が投句されたことも大きな収穫で、これを機会に県内外の若い人たちが今後も作句し続けてほしいと願っている。

10月には「二本松菊人形展」開催中の二本松市霞ヶ城公園で吟行句会を開催し、11名が参加。当日の高得点句は、

穴太鼓の声沁む石や黄落期 大河原真青
本丸に立てば安達太良鳥渡る 永瀬 十悟

4月には通信句会を行った。28名の投句を互選し、総会終了後合評会を行った。得点句に以下のような句があった。

考へる船足となり鴨の水脈 江井 芳朗

テニスのラリーー瞬花吹雪の中に
 春愁のひかり窓辺を攪拌す
 若冲の蛇なら見ていられるのに
 亀鳴くや袋に遺る菓束
 黒々と爪の中なる春の土
 夫逝くや盤寿の春を従えて
 餅食つて寄りあひをれば瓦礫かな
 春一番ミサイルのごとレジ袋
 白梅や空に笑窪を見つれたり
 どの子にも青空のありシャボン玉
 屋上の冷たき手すり海が見える
 ブリーチに黒を重ねて卒業す
 空元気もう尽きそうだ春の雲

高市 宏
 鈴木亜由美
 阿部ゑみ子
 宗像真知子
 湯田 一秋
 服部きみ子
 植木 國夫
 鶴川 伸二
 櫻井 潤一
 丹羽 裕子
 春日 石疼
 大槻 千明
 佐藤 保子

また県会報を4回発行し、会員間の交流に役立てている。

令和6年度総会の中で新規会員の拡大を計画し、総会を前後して新規会員の申し込みが数名あった。今後さらに会員を増やし、会員相互の研鑽と交流を深めていく福島県現代俳句協会でありたいと考えている。

(春日石疼)

茨城地区

会長 高橋 和彌

- ◇第40回現代俳句茨城大会 会場 水戸市県立青少年会館
- 期日 7月17日 募集句 1126句 当日参加者58名
- 茨城県現代俳句協会会長賞
- 蝌蚪に脚これより自由という不安 梅井 玲子
- 中村和弘現代俳句協会会長賞
- 花種を蒔く戦場とならぬやう 増田 宇一
- 笹川昌子茨城県俳句作家協会会長賞
- 薄れても読める夫の字種袋 梅井 玲子
- 講師・宮崎斗士現代俳句協会顕彰部長特選
- 笑顔ばかり思ひだす子の雛飾る 稲垣 初江
- 早苗田を見守る父のラストラン 伏屋 雅子
- くろがねの風鈴親も夫も見て 高野よしこ
- 高橋和彌茨城県現代俳句協会会長特選
- 1センチ父の背抜きしこどもの日 網代奈津江
- 花種を蒔く戦場とならぬやう 増田 宇一
- 薫風や埴輪の口は「あ」の形 伊沢とよ子
- 当日句 席題は「宮」
- 高橋和彌茨城県現代俳句協会会長賞
- 奥の宮千年杉の息涼し 根本菜穂子
- 中村和弘現代俳句協会会長賞
- 汚染水宵宮の海しづかなり 高野よしこ

笹川昌子茨城県俳句作家協会会長賞	
宵宮や四〇〇年の路地灯る	山口 富雄
宮崎斗士現代俳句協会顕彰部長特選	
緑さす瞳美し宮参り	白土 昌夫
一人居の闇に吉兆守宮鳴く	田山 康子
竜宮に事件ありしや飛魚の翔ぶ	小川みのる
高橋和彌茨城県現代俳句協会会長特選	
宵宮や四〇〇年の路地灯る	山口 富雄
宮参り双子の稚やさくらんぼ	沼田 鈴
炎昼の新宿地下街は迷宮	安田 政子

◇第30回作品奨励賞

作品奨励賞

「春光」 小沼 悦子

佳作賞

「花野」 星子 恵己

「春を待つ」 下村アサ子

「麦の秋」 荒川 誠

◇茨城県現代俳句協会第3回地区別会員句会

開催日令和6年2月23日

会場 水戸市・偕楽園を吟行の後に句会

参加者25名 地区別区会高点句

吟行の不意打ち食らふ春の雪	小松崎黎子
春雪の傘を払いて表門	新井 洗澄
どの道を曲がるもぬかる梅の園	平野ばにら
近づけば笠と触れ合う梅の枝	大野ひろし
春の雪ぽつり客待つ野点席	根本菜穂子
休みたきベンチいずれも春の雪	塩谷きみこ

◇会報の発行

第144号～146号を発行。

本部を始め各地区協事務局・茨城県会員全員へ送付

◇第33回吟行会

開催 令和5年10月13日

会場 笠間市稲田西念寺 親鸞聖人立教開宗の地

コロナの感染拡大により、計画3年後に実施

吟行会高点句

銀杏の掃き寄せられて嵩なせり	大野ひろし
禅房の稲田敷石こぼれ萩	宮路 久子
山門は秋の入り口西念寺	黒澤みどり
葺きたての茅の山門秋高し	根本菜穂子
山門に稲田山の字秋気澄む	飛田 伸夫

◇幹事会の開催

第1回 令和5年 6月28日 大会採点・大会担当確認など

第2回 令和5年12月 5日 茨城大会報告・新役員選挙など

第3回 令和6年4月9日 総会議案・新役員案・本部総会報告

◇令和6年度通常総会

会場水戸市・県立青少年会館

参加者 32名（委任含む。（委任率74%）

報告・活動計画ともに満場一致で採択。

新入会員・小泉新平氏を紹介の後、総会句会を実施

令和6年度通常総会句会結果 高点句

仏壇の隣寸の湿り昭和の日

佐藤 和子

余生なる小さき未来を春耕す

安田 政子

崩れゆく平和憲法記念の日

笠原 壮介

たんぽぽの通訳は孫走り来る

新井 洗澄

貧しさは弁当にあり昭和の日

山田 健太

真っ先にキリンの首へ花の冷え

大野ひろし

(山口富雄)

栃木地区

会長 中井洋子

◇第18回通信句会 5年5月～8月（表彰第68回俳句研究会）

投句者61名、選句者67名 参加率82%

万緑や児の眼は宇宙船の窓

小川たか子

夏景色クリックすれば激戦地

石倉 夏生

てにおはの知りたき一字紙魚のあと

五十嵐すず

助手席の母との時間麦の秋

池澤 光子

逃げ水や自己を肯定しない距離

本間 睦美

◇第68回俳句研究会 令和5年9月3日（水）

於 宇都宮生涯学習センター・吟行会 参加者23名

残暑の教会くらやみにいて安堵

中村 克子

栃の実はまだ空のもの県庁前

鯉沼 桂子

片陰に入れば片蔭色の風

山野井朝香

炎昼を歩き誰のせいでもない怒り

和田 璋子

教会のミサ曲包む蟬しぐれ

戸田富美子

二荒の階の風秋高し

小杉栄美子

◇第31回現代俳句色紙展 令和5年11月11日（土）～12日（日）

於 とちぎ岩下の新生姜ホール大会議室（栃木文化会館）

会員コーナー 色紙25点・短冊26点・はがきで一句18点

特別コーナー 「和田浩一の俳句世界」

鴟猛る島に一つの展望台

速水 峰邨

バッタ飛ぶ高みふわっと少年期

須藤火珠男

白日の奥へ吸はれし秋の蝶

大竹 照子

旅に出る日のバナナの曲がり具合

北島 洋子

水の字を標す土蔵や青田風

中田 陽子

雲巖寺生々世々の竹の春

中村 國司

夜のメロンは世界を編んでいる

神山 姫余

秋うららおしゃべりやめて歩こうか

松本 登子

- 北風と合流ハーレーダビッドソン
おほいぬふぐり辺り一面に磁気
- 増山 ちさ
大嶋 邦子
- ◇総会および新春俳句大会 令和6年1月14日(日)
於 栃木市サンプラザ 参加者23名
- 街宣車の前を小走り年の春
処方箋は月の渚を歩くこと
搾りだすまっかな絵の具開戦日
荒星や宙ぶらりんの我をりぬ
リレーの子ピカソの顔で走り抜け
柚子風呂や土踏まずより解れくる
- 橋本 尚子
水口 圭子
和田 浩一
斎藤 絢子
白井 正枝
石川 和子
- ◇第69回俳句研究会 令和6年4月9日(火)
於 小山市生涯学習センター・吟行会 参加者23名
- 思川桜に乱世の風吹き来る
花の雨かくも暗くて甘いとは
静止せし地機に桜色の糸
ぎおんばし渡り遠き日のぶらんこ
- 中井 洋子
高田 栄子
佐々木輝美
遊座 純子
- ◇支部句会 県南支部・県西支部・宇都宮支部・栃木支部・上都賀支部
- ◇会報の発行
170号(R5・7月)～174号(R6・6月)
(水口 圭子)

群馬地区

会長 堀越 胡流

- ◇令和5年度定期総会並びに第37回俳句大会
令和5年4月9日(日)群馬県庁昭和庁舎
令和4年度事業報告・決算報告などが原案通り承認された。
会長に堀越胡流新会長
第30回群馬県現代俳句協会大賞顕彰
三島梅子「新樹光」
落款を押して見上る望の月
魂を込めて墨磨る秋気かな
実朝の歌しみじみと書く夜長
- 第37回俳句大会
会員・会員外参加者56名百64句
現代俳句協会賞 試着室のぞく妻みてあたたかし 原田 要三
群馬県教育文化事業団賞 髪カットちょぴりウフフ春隣 佐藤 愛子
上毛新聞社賞 探梅や母を探しに行くやうに 清水 里子
毎日新聞社前橋支局賞 蠟梅の散りて川風濃くなりぬ 小野里 勲
群馬県現代俳句協会賞 東風吹くやことばの敵に鋤いれて 狩野 優子
- ◇第13回紙上俳句大会
令和5年9月 会員・会員外参加者45名146句
魂迎え子の来る道を掃き清む 清水 里子
次の世も百姓でよし茄子の花 本田 巖

夜濯ぎの母の名大き病衣かな
人来るも人來ぬもよし十三夜
昼寢覚この世の息をしてをりぬ

武井 波真
茂木 房子
赤堀 琴代

◇第28回吟行会

令和5年10月1日(日) 太田市世良田東照宮・長樂寺

会員参加者20名

宝塔へ露の世の目を遊ばしむ
心経を小声で唱え涼新た
御仏の知恵授かりて秋を詠む
煩惱の鎮まる社秋の雨
長樂寺の古木育む秋の雨

中里 麦外
堀越 胡流
大島 知子
永沢まさ子
野村 紘一

◇第9回研修句会

令和5年10月29日 群馬県生涯学習センター

会員参加者11名

ひとつ知りふたつ忘るる生身魂
声あらば喝と叫ばん枯蠅螂
ご先祖と共に眠る子草の花
枯蠅螂哀願の眼を向けにけり
晩秋やおにぎり三つ分の黙

石井 紅楓
原田 要三
大島 知子
秋元 俱子
石原百合子

◇会報発行

第69号(令和5年1月10日)、第70号(令和5年6月10日)

(河合秀美)

埼玉地区

会長 杉本青三郎

◇第45回埼玉俳句大会 令和5年7月8日

会場：春日部市民文化会館大会議室

講演：柏田雄三先生(昆虫芸術研究家) 演題「昆虫の句碑を訪ねる」

応募総数：536句

《入賞作品上位10句》

風薫る切り株と言う自由席
夏木立行間狭き文庫本
どこにでも水のある国遠郭公
長寿より先ずは生き甲斐葱坊主
この家は玄関ふたつ燕来る
薫風や校歌は山河讃へつつ
ラジオごと脚立の歩く袋掛
万緑や人には笑みという力
墓に水さっきまでいた青蜥蜴
しゃぼん玉の中に戦車を封じ込む

豊田 いと
中村 香苗
鈴木 良二
江口 武夫
田中 朋子
伊藤 恭子
小山 敏男
斎藤 久子
金子 和美
山崎 十生

◇定期総会 令和6年3月20日

会場：(桶川市) さいたま文学館 1 階ホール

《第 2 1 回埼玉県現代俳句大賞・表彰式》

☆大賞 「ゆくりなく」 北上 正枝

☆準賞 「くにやり」 高木 宇大

《一句会上位 5 句》

喉という不思議な楽器浮かれ猫 北上 正枝

亀鳴くを待つにんげんに少し飽き 折原野歩留

肌荒れの目立つ裸婦像桜東風 石井 喜恵

泣きそうなくらいに花が揺れている 藤澤 晴美

蒲公英の絮を集めて空を飛ぶ 青木 鶴城

◇会報発行

第 8 5 号 (令和 5 年 9 月 2 0 日)、第 8 6 号 (令和 6 年 3 月 2 0 日)

(中野博夫)

千葉地区

会長 並木 邑人

◇令和 6 年度総会・俳句大会

令和 6 年 3 月 1 7 日 (日) 千葉市文化センター

コロナ後の大会を昨年に引続き開催。出席者 6 3 名

★俳句大会【事前投句の部】

千葉県知事賞

たましいのはじめのみどり 芹薺 清水 伶

千葉県現代俳句協会賞

一月の一の字肩が凝っている 羽村美和子

千葉市長賞

退屈が象の背中に降りて春 蛭名 節昌

毎日新聞社賞

日の落葉月の落葉と掃き寄せる 森 孝子

★俳句大会【高校生の部】

千葉県現代俳句協会会長賞 鎌ヶ谷高校

青りんご知識の果実熟れなくて 長野 光希

俳句大会委員長賞 柏中央高校

風や持久走後の木乃伊たち 伊藤 晶

俳句大会実行委員長賞 長狭高校

先輩の青春残る椅子机 加藤 獅扇

★俳句大会【席題の部】題 陽炎・面

千葉県現代俳句協会会長賞

陽炎や地球が浮いている不安 前田 孝子

千葉県教育長賞

自画像の片面がないリラの冷え 池田 博臣

朝日新聞社千葉総局賞

B面へカチャリと替わり卒業す

遠藤 寛子

◇秋の吟行会

令和5年10月29日(日) 松戸市「戸定邸」

句会場 船橋市勤労市民センター 参加者53名

上位入賞句

硝子戸に明治の歪初紅葉

矢野 忠男

使者の間にこうもりがいる秋時雨

羽村美和子

語り部は柂目の柱小鳥来る

椎名 鳳人

◇春の吟行会

令和6年4月21日(日) 千葉市動物公園

句会場 千葉市民会館 参加者48名

上位入賞句

万緑や人の愚痴聞く象の耳

長井 寛

縞馬の尻が主張をして若葉

蛭名 節昌

人間に見えない鎖昭和の日

長濱 聰子

◇研究句会等

★津田沼研究句会 毎月第2火曜13時 2句事前投句

津田沼1丁目町会会館

★青葉研究句会 毎月第4木曜13時 3句事前投句

千葉市民会館

★柏研究句会 毎月第2土曜13時 7句当日投句

柏市・ハックルベリー書店

★君津研究句会 毎月第1木曜13時 3句事前投句

君津市生涯学習交流センター

★いすみ安房研究句会 隔月第4日曜13時 5句事前投句

勝浦市・ふじや

6年3月から、千葉の長年の念願であった県南地域での研究句会を発足させることができた。

★あしたば句会(青年部)

隔月不定期にインターネット句会、吟行会を実施

★初心者俳句講座(第二期)

原則毎月第3土曜13時

千葉市民会館

5年4月からの第一期10回の講座を終了し、引続き第二期講座をスタートさせた。

◇幹事会

定例幹事会 年4回 8・11・1・5月

◇会報「現代俳句千葉」の発行

9・12・3・6月刊 150～153号 B5版12～16頁

(並木邑人)

東京都区

会長 山本 敏倅

◇令和5年度第55回秋季吟行会・新入会員歓迎会

令和5年9月9日（土）台東区民会館

浅草を吟行して2句投句の句会。参加者42名、うち新入会員は7名、それぞれしっかりと自己紹介・抱負を述べていた。

〈新入会員当日句〉

担ぎ胼胝袈裟から覗く盆の僧	早川 厚
重陽や鬼平忍ぶ待乳山	野上きよみ
観音を守る银杏や震災忌	水村 洋子
白粉に占拠されたる二十坪	高木マキ子
秋時雨句の種子探す浅草寺	小山 園子
レイトショー了へて眩しき芒道	橋本 牧人
原色をくぐり浅草花木権	見目 千絵

〈当日上位五句〉

菊酒や母の浅草ぶらぶら記	松田ひろむ
露の世の翻訳みくじ売れまくる	川崎 果連
長月をはみ出す人形焼の餡	山本 敏倅
台風のしっぽに触れる雷門	櫻木美保子
翳雲君居ればゆく神谷バー	横山 小鼓

◇令和6年度定時総会 令和6年3月9日（土）

台東区民会館 参加者45名

来賓として神奈川・千葉・東京多摩各地区協代表と「豈」同人・大井恒行氏を講師として迎えた。議長に白石正人氏、副議長に加那屋こあ氏を選任。

令和5年度事業報告、決算報告、監査の承認及び令和6年度事業計画、予算案、役員改選の件など諸議案はすべて原案通り可決。

また、令和5年5月27日に都区協創立40周年記念大会が成功裏に開催されたことが山本会長より報告された。

休憩後、恒例の一句持寄り句会に入った。

〈当日上位五句〉

しゃぼん玉飛ばないという選択肢	青木 栄子
ファスナーの噛みつく今朝の余寒かな	讃岐 幸江
戦車ではなくて春田の耕運機	山中 裕子
啓蟄や金網出られぬ仁王像	石口 榮
愛憎は宙ぶらりんで卒業歌	川崎 果連

◇春季吟行会（通信句会） 令和6年4月23日（火）

皇居東御苑を吟行、後日通信にて投句・選句。35名参加

〈上位5句〉

花曇三十五トンの石の黙	山口 紀子
蝌蚪生る本籍千代田一番地	石口 榮
風光る金貨のチョコに菊家紋	加那屋こあ
無血開城大手門より夏つばめ	栗原かつ代

奔放に蕙の芽松の廊下跡

青木 栄子

◇高田馬場句会 年4回

令和5年7月4日・10月3日・令和6年1月9日・4月2日に実施。

兼題1句と席題1句。各回25名の人数制限を、4月より30名に拡大。

◇スクランブル通信句会 *都区協会員以外の投句歓迎。

隔月偶数月に開催。投句数当季雑詠3句。メール・FAX・郵便での投句可。

◇ビッグバン通信句会(新企画) *都区協会員以外の投句歓迎。

隔月奇数月に開催。投句数雑詠1句と兼題1句。ネットでの投句のみ。

◇各ブロックの行事

Aブロック吟行会 令和5年8月8日 木場公園周辺 44名

〈上位3句〉

とんぼうは風人は影連れ歩く

石口 榮

木の家に住み木の下で蟬の声

小高 沙羅

立秋の雲巻き上げてゆく動悸

栗原かつ代

Bブロック吟行会 令和5年7月6日 多摩川台古墳 32名

〈上位3句〉

黒揚羽ゆらり古墳の時間軸

栗原かつ代

緑蔭の細道を行く太古まで

山本 敏倅

古墳群山百合の香の重すぎる

赤澤 敬子

Cブロック吟行会 令和5年11月15日 三鷹周辺 37名

〈上位3句〉

かみのるすしねないくせにしぬという

川崎 果連

インバネス羽織る太宰の子煩惱

磯部 薫子

黄落や未練もきつとあつたはず

白石みずき

Dブロック吟行会 令和5年10月9日 石神井公園 44名

〈上位3句〉

雨降って美男葛でいられない

中内 火星

雨の日は雨の音して木の実落つ

広田 輝子

方針はないが団栗止まらない

増田 萌子

◇会報発行

年4回定期刊行 第195号～第198号

(長谷川はるか)

東京多摩地区

会長 水野星閣

◇月例 俳句会 (於: 立川市子ども未来センター)

令和5年 7月15日(土)

参加者: 19名

令和5年 8月26日(土)

石川春兎氏 講話

参加者: 33名

令和5年 9月9日(土)

大石雄鬼氏 講話

参加者: 33名

令和5年11月25日(土)

董振華氏 講話

参加者: 25名

令和5年12月23日(土)

参加者: 21名

令和6年 1月27日(土)

参加者: 25名

令和6年	2月24日(土)		参加者：25名
令和6年	3月30日(土)		参加者：22名
令和6年	4月27日(土)	水野星闇氏 講話	参加者：24名
令和6年	5月18日(土)		参加者：16名
令和6年	6月22日(土)		参加者：25名

◇会報「多摩のあけぼの」

一人一句全てを掲載(会報折込はがきにて投句)、一句鑑賞、
会員の声を掲載(年4回発行、平均17頁)

◇秋の吟行会

日 時：令和5年10月7日(土)
場 所：小金井市江戸東京たてもの園
句会場：小金井市 萌え木ホール
参加者25名 投句数50句

(入賞句)

原っぱに土管もありて秋の空	尾崎 太郎
どんぐりやわれも落下の途中にて	亀津ひのとり
発車ベル鳴らせ都電よ菊日和	青木 隆
秋麗や世を見つづけし古交番	根岸 敏三
秋草や風のまにまにむかしの香	秋山ふみ子
黒塗りのリヤカー色なき風の中	石川 春兎
昭和長屋やかん卓袱台秋団扇	南行ひかる

◇第41回東京多摩地区現代俳句協会俳句大会

日時：令和5年10月29日(日) 14時から
会場：武蔵野スイングホール11階レインボーサロン
投句者127名 投句数654句、懇親会は中止。

〈俳句大会賞〉

吾輩は何だったのか漱石忌 蓮見徳郎

〈入賞句〉

抱けそうな月が出ていて帰れない	吉田 典子
全席が自由席です仏の座	桑田 制三
噴水はもう噴水にあきている	前田 光枝
新涼やコップの中に水平線	飛永百合子
膝に来る柿の固さの男の子	関戸 信治
天瓜粉打たれ無邪気な母となる	永井 潮
自由とは孤独でもあり冬鴉	宮腰 秀子
合歓咲いて朝から時間やわらかい	山崎せつ子
向日葵の迷路を刈れば空ばかり	栗原かつ代

◇令和6年度定時総会及び陽春句会

令和6年3月23日(土) 武蔵野スイングホール

総会・陽春句会を開催。懇親会は中止。投句者69名

役員任期満了に伴い、役員改選を行なって新しい執行部体制を決議した。
また、コロナ禍の経過の中で、会員数の減少や高齢化などの諸問題を抱えながらも、現代俳句協会本部組織の社団法人化が実現したこと、それに伴って、今後の本部・地区協の関係や両者間の連携体制について明確な指針が出されたことなどが、報告された。

(陽春句会大賞句)

つなぐ手は互いの介助春の雲

野口 佐稔

(入賞句)

葱切つてあと十年は生きてやる

米澤 久子

春耕や土は混声合唱団

芳賀 陽子

削られし武甲の山も笑いけり

一ノ瀬順子

梅咲いて誰か訪ねてくる予感

蓮見 徳郎

なまはげの落していった藁二本

佐々木克子

独り居の父訪ふも旅はじめ

秋山ふみ子

うりずんの海揺れ輸送機の轟音

満田 光生

笑うことも泣くことも無き紙雛

笹木 弘

どの家も夜が来ている雛祭

好井 由江

◇初夏の吟行会

令和6年6月1日(土) 正福寺と北山公園(東村山市)

句会場: 東村山市サンパルネ コンベンションホール

参加者17名 投句数34句

(大賞句) だいじょうぶだあ賞

善行橋渡れば善人立葵

根岸 操(だいじょうぶだあ賞)

(入賞句)

御朱印の自販機もあり麦の秋

尾崎 太郎(だいじょうぶだあ賞)

だんご屋の忙しく煽る洪団扇

石橋いろり(だいじょうぶだあ賞)

花菖蒲色とりどりの風を呼ぶ

亀津ひとり(だいじょうぶだあ賞)

夏雲を置き正福寺の屋根のそり

西前 千恵(東村山賞)

地藏堂反る軒先は夏空へ

水野 星闇(東村山賞)

ざり蟹を釣るチビ子の顔光る

石原 俊彦(東村山賞)

(大森敦夫)

神奈川地区

会長 芳賀 陽子

◇会報161号 令和5年9月発行 (秋の1句)

もう秋か夜半の雨を聴きながら

中山 妙子

ゆく秋や心は流浪の民となり

永井 良和

◇丹沢句会 吟行会 令和5年10月20日

旧吉田茂邸・旧三井別邸地区 29名

浴槽は舟の形や月へ漕ぐ

杉 美春

秋声やもう繋がらぬ黒電話

八木 和子

新松子昭和へつなぐ黒電話

関根 洋子

戦後史は私の歴史残る虫

尾崎 竹詩

書棚にある昭和の骨格天高し

佐々木重満

「バカヤロー」は昭和の一声萩の風

北村 文江

宰相の椅子ふかぶかと秋の潮

土岐 詳恵

◇第40回俳句大会 令和5年11月24日

かながわ県民センター 97名
水買いに出て立秋とすれ違う
鶴飛来空はすみずみまで多感
夕焼のどこに立ちてもどまんなか
天国に空席押さええ蜆汁
青簾いつも一人で見る写真
ふつくらと日本のほひ小豆煮る
冬瓜の鈍感力の重さかな

関戸 信治
かわにし雄策
栗林さと子
菅原 若水
岡田 恵子
小川 竜胆
北村 文江

◇湘南サンシャイン句会 吟行会 令和5年12月1日

藤沢市・新林公園他 51名

へつついに女の月日石露あかり
音合わせ中です森の百千鳥
沓脱の石どつしりと冬に入る
日をうけて明日への構へ冬木立
薪小屋の薪の湿りや花八手
冬麗やどこか淋しい釣瓶井戸
ヴァイオリン聞くために踏む落葉道

土岐 詳恵
尾崎 竹詩
荻野 樹美
大本 尚
増井 智子
長島喜代子
金栗トモ子

◇会報162号 令和5年12月発行 (冬の1句)

大島も富士も影法師寒苦鳥
凧や最後の一葉剥がれそう

猪狩 鳳保
加藤 三眠

◇会報163号 令和6年3月発行 (春の1句)

黄水仙石につまづき釈迦仰ぐ
ごみ収集車春満月を置き去りに

安藤 靖
町野 敦子

◇定時総会 令和6年3月3日 かながわ県民センター 56名

戦なき国に生まれて目刺食ぶ
虫穴を出て安全な国はどこ
国盗の悲しきニュース春の雪
人形焼のひとり欠けたり春の雪
初恋も昨日の恋も春の雪
鳥帰る祖国の平和憂いつつ
春雪や光の跳ねる楽器店

金栗トモ子
伊藤 梢
村上 裕也
里見 美季
川村智香子
長谷川昭放
田畑ヒロ子

◇会報164号 令和6年6月発行 (夏の1句)

ハミングする卒寿の母の卵浪かな
生かされて線香花火の煌々と

石鎚 優
宮永 武彦

(佐藤 久)

甲信地区

会長 佐藤 文子

◇紙上句会

会員の作品を鑑賞し俳句表現の学習をする機会の提供。会員の半数が参加。
第36回。応募 66名、132句。選者に秋尾敏氏、大井恒行氏、神野紗

希氏を迎えた。

秋尾 敏	特選	ゆきあひの空やパスタを折りて茹づ	小伊藤美保子
大井 恒行	特撰	鷹渡る無窮の空を引き絞り	岩井かりん
神野 紗希	特選	人が人生む朝の陽よななかまど	吉池 史江
宮坂 静生	特選	人が人生む朝の陽よななかまど	吉池 史江
城取 信平	特選	虫の夜や熔岩原磁気を帯びしやう	黒沢 孝子
佐藤 文子	特選	曼珠沙華謎かけしまま忽と消ゆ	窪田 英治
堤 保徳	特選	望の夜や傀儡ぱくりと口を裂く	大野今朝子
中村 和代	特選	秋天に愁ひの欠片見つけをり	伊藤みち子
仲 寒蟬	特選	芒野を掘れば真実現るる	中村 和代
島田 洋子	特選	巫女髪を解けば少女に水の秋	篠遠 良子
久根美和子	特選	はんざきのたらふく時間食ひし腹	仲 寒蟬
青木 澄江	特選	鷹渡る無窮の空を引き絞り	岩井かりん
西村はる美	特選	鷹渡る無窮の空を引き絞り	岩井かりん

◇会報発行（会の運営等の情報を会員に提供）

令和5年8月28日 第101号発行。紙上総会。吟行会・紙上句会案内。

◇定時総会

例年年度末に開催していたが、コロナウィルス感染防止のため、昨年に行き続いて中止とし、会報に前年度事業報告、収支決算報告及び監査報告、本年度事業計画、収支計画を提案。通信により採決。同時開催予定だった俳句大会も中止。尚、今年度の地区会費は半額の1,000円とした。

◇第29回吟行会

令和5年9月17日（日）に諏訪大社秋宮周辺で吟行。「食祭館」にて句会。参加者25名。

佐藤 文子	特選	長々と祈る漢や秋の蟬	若月はつ江
小林 貴子	特選	湖覆ふ萍紅葉燻りぬ	窪田 英治
仲 寒蟬	特選	御作田のつましき下社小鳥来る	久根美和子
堤 保徳	特選	神が恋して一位の実赤々と	久根美和子
本田 幸達	特選	御作田のつましき下社小鳥来る	久根美和子 (窪田 英治)

新潟地区

会長 清水 道徑

◇機関誌「現代俳句にいがた」第15号 8月1日発刊

会員の投句参加率は81%、作品中心の機関誌として定着。

◇令和5年度定例役員会 9月14日開催

長岡市にて17名参加。

- ① 会員動静、行事報告、会計中間報告
- ② 令和6年度の行事について（定例総会・持ち寄り句会、いちにち吟行会、通信句会、機関誌第16号の発刊、事務局だよりの発行）。
- ③ 10月3日（火）の新潟地区「いちにち吟行会」について
- ④ 役員を選任について

⑤ 現代俳句協会の一般社団法人化に伴う規約改正について

◇「いちにち吟行会」 10月3日新潟地区で開催

新潟市の白山神社、白山公園、空中庭園などを吟行。

白山公園隣接の燕喜館の座敷にて句会。参加者は21名。

高得点句は

たまさかの秋麗歩幅広がりぬ

米山 節子

天高しさびしい人が生きのこり

北村美都子

蒲の穂の絮を飛ばさむ素十の忌

司 雪絵

獅子岩の風化親しき秋日和

眞貝 葉月

◇「事務局だより」発行

第76号（令和5年12月）、第77号（令和6年5月）

◇令和6年度定例総会 4月13日長岡市で開催

15名出席。令和5年度行事・会計・会計監査・会員異動等の報告、令和6年度行事計画・現代俳句協会の一般社団法人化に伴う規約改正・役員の内任について審議。承認。

◇総会後の持寄り句会 4月13日

一人二句事前投句で総会終了後に句会を行った。

高得点句は

どこまでも空を汚さず囀れり

袖山 リエ

長命は苦しきことよ草むしり

武本 松久

春寒を飛ばす鼓童の桴捌き

中村 梨枝

五姉妹のふたり銀髪雛の宴

渡辺 真帆

◇「いちにち吟行会」 5月27日開催

三条市2・7の市、まちやま、八幡宮を吟行。

三条市中央公民館で句会を行った。

高得点句は

売れ筋の剥きそら豆を驚摺み

米山 節子

手計りのおまけあふるる莢えんどう

司 雪絵

◇通信句会 3句投句、10句選（内1句特選、選評記載）

各回の高得点句は

第22回 7～8月 31名参加

子を入れて更に傾く白日傘

藤沢 潮子

第23回 9～10月 38名参加

夏休み蛇口ひとつが空に向き

山口 冬人

第24回 1～2月 35名参加

七日粥すこやかに今老いざかり

藤沢 潮子

第25回 2～3月 34名参加

春へ押すカウベルの鳴る木の扉

渡辺 真帆

第26回 4～5月 27名参加

子供の日ひるがへるもの皆高し

成保 房子

第27回 5～6月 34名参加

万緑や人が小さく見えてくる

成保 房子

（佐藤 彬）

石川地区

会長 関戸美智子

◇定期総会・句会

日 時 令和6年3月20日(水・祝) 13時～

場 所 金沢市・石川県女性センター

令和5年度事業報告、決算報告。及び令和6年度事業計画、予算を審議、承認された。終了後、事前投句による句会を行う。

※当日は、会長が入院のため欠席、副会長も不都合。8名の出席者となる。

事前投句(42句)による句会を開催

5点～2点句

風光る青空で手を洗おうか

峠谷 清広

エンジンのかかりの悪き木の芽時

棚野 智恵

復興の灯火ひとり畑を打つ

藪野 忠行

春めくや陶の耳付く指の腹

梅木 俊平

雨水なり地震の後の土臭し

舘 百合子

近江町市場干鱈の百面相

前野 狼騎

啓蟄や復興目指す底力

森田 香月

春きざす心にめぶく能登文化

阿木よう子

ひりひりと顔に貼りつく寒の水

大沢 輝一

車椅子たためば春の小川です

関戸美智子

◇第13回 俳句並びなさい「はがきによる一句展」

日 時 令和6年4月25日(木)～5月8日(水)

場 所 石川県女性センター1階アートギャラリー

出展数 54点

◇秋季吟行会

日 時 令和5年11月12日(日)

吟行地 石川県山中温泉 参加者10名

句会場 コミュニティー・ささやカフェ

虫眼鏡びっしり冬が付いていた

大沢 輝一

山中音頭さざんかすこし膨張す

松井麻容子

照紅葉脇にひびきし棒鉦

梅木 俊平

苔濡るる庵に石露とふ灯り

森田 香月

まだ青き楓一葉を叱りけり

木村 寛伸

同日、有志5人で、山中温泉宿「よしのや依緑園」に一泊。20時～句会

初しぐれ畳廊下に置行灯

笹次 和子

一晚中雨の辛さに冬ざれる

岡田 政信

溪流の闇へ秋の灯落とし込む

舘 百合子

冬の雨山中節を地に刻む

坂本真智子

再会のさらに大きな石露の花

関戸美智子

◇夏季吟行会

日時 令和6年7月8日(土)
吟行地 金沢市の雑踏を詠む 参加者8名
句会場 金沢市・石川県女性センター

◇会報(年1回)第32号 令和6年2月20日発行

(関戸美智子)

静岡地区

会長 滝浪 武

◇静岡県現代俳句協会俳句大会

令和5年8月26日(土)、静岡市「あざれあ」
参加者：27名 応募者32名 投句数：136句
表彰：協会賞1名 優秀賞4名

協会賞

炎天に出て体内の水動く

滝浪 武

優秀賞

新緑の海しばらくは深海魚

滝浪さち子

書棚より昭和とり出す夜半の秋

戸塚 きる

百頭の馬草原に霧動く

滝浪 武

梅雨の月ゆっくりくずれてゆく記憶

滝浪さち子

◇第14回静岡県現代俳句大賞

令和5年8月26日(土)、静岡市「あざれあ」
応募者：19名(応募作品は一編10句)
表彰：大賞1名 準賞2名 奨励賞4名

大賞「開拓地」 越川 都

代表作 いわし雲バス停の名は開拓地

廃線の幸福といふ露の駅

準賞「音の断片」 稲津とし子

代表作 花の山ブルドーザーがやってくる

準賞「その時色は…」 枇杷木 愛

代表作 たたまれて男日傘の藍深し

◇静岡県現代俳句協会中部文学散歩

令和5年10月25日(水)、静岡市「あざれあ」
参加者26名 ※各自、駿府城公園周辺を吟行。2句出して句会。
表彰：協会賞1名 会長賞1名 優秀賞9名

協会賞

つるし柿妻は自在の左利き

杉山 昌平

会長賞

天領に出てかりがねの列揃ふ

花房 なお

優秀賞(8点)

蟻螂や尖った声の人ばかり

鈴木あさ子

優秀賞(6点)

草紅葉地球に生きて永らへる
寄せて引く波に愁思の置き所

植田しづ子
阿久津明子

◇第40回静岡県現代俳句協会定期総会

日時：令和6年3月9日（土）、静岡市「あざれあ」

場所：静岡市「あざれあ」

内容：①令和5年度事業報告・会計報告

②令和6年度事業計画・会計予算 他

参加数21名、総会終了後、一句会を開催。

※一句会互選結果（上位）

月凍てて半島の海鳴りやまず
振り向かず生きて行きたし初鏡
戻り寒互いに杖となりて行く
春立つや安心と言うパスワード
海へと向く流木たましいに雪
来し方の浅き足跡冬すみれ

つげ 葉子
東城 保子
植田しづ子
鈴木あさ子
滝浪 武
阿久津明子

◇会報発行 年2回

令和5年12月（135号）

令和6年4月（136号）

内容：巻頭随想、行事報告・予定、諸家近詠、
近詠一句鑑賞、エッセイ、わが俳句工房 等。

（花房 なお）

東海地区

会長 大西健司

◇第25回東海地区現代俳句賞〈令和5年11月10日・ウインクあいち〉

今年度より五十歳以下の部を設ける。応募作品31編（五十歳以下9編・
一般22編）について、会長が委託した八人の選考委員が審査。

〈一般の部〉

俳句賞 度会さちこ 「西行忌」〈郭公〉

陽炎を割つて玄室まで一人
影ふみの最後の一步虫すだく
風に聴き火に水に書く西行忌

奨励賞 向井泰子「姫女苑」〈菜の花〉

それぞれが良き花蔭に収まりぬ
膨らみの残る手袋落ちてをり

〈五十歳以下の部〉

奨励賞 後藤麻衣子「声の主」〈句具・蒼海〉

クロールのいつも右から吸う空気
遠火事や修正液の海つつく

奨励賞 工藤厚子「愛情の色」〈韻〉

愛情の色は何色熱帯魚
言いなりにならぬ女の夏帽子

奨励賞 菊山千月「いきもの」〈韻〉

耳たぶはけものの形春の雪

逝く人の透きとおるまで草の絮

◇第19回現代俳句東海大会〈令和5年10月29日・ウインクあいち〉

応募総数 888句 高校生の投句有り 大会参加者63名

大会賞	赤のままみんな遠くへ行つたきり	伊藤 政美
秀逸	母の待つ緑陰といふ駅のあり	前田 秀子
	地藏盆きれいな色のもの並べ	平賀 節代
	鉄路から戦の臭いする炎天	尾崎 竹詩
	古代蓮雨を正しく捌きけり	山本 敏倅

秀逸17句・佳作20句

講演 太西かおり先生「俳句と自然体験」

◇令和六年度総会・28回新年俳句大会〈令和6年2月18日大会・総会・ウインクあいち〉

参加者71名

総会議案審議全て承認される。新年大会応募総数四百二十句

会長賞	門松を褒めて入りぬ理髪店	大堀 祐吉
秀逸	おでん酒つかみどころのない人と	海野さちこ
	数へ日や引き出しに紐食み出して	中尾 節子
	枯れてゆくみな暖かき色を持ち	村田佐和子

秀逸三句・優秀3句・佳作11句

◇吟行句会〈令和6年5月19日・藤川宿むらさきかん〉

参加者74名

大会賞	平凡に生きて緑雨の十王堂	菊山 千月
	雨まじる風の重さや麦熟れて	宮田かつこ
高得点句	柿の花明るき人についてゆく	八木茂都子
	青葉冷吾の罪如何に十王堂	竹内千賀子

◇青年部のジャズ句会・オンライン句会

ジャズ句会 令和5年11月11日に開催。参加者31名

オンライン句会 2回開催

青年部主催吟行会〈令和6年6月15日〉大須 参加者	18名
声明の緑陰ヒジャブのをんな過ぐ	村山 恭子
六月の風の休めり鐘の中	佐々木 歩
古着屋の異国の匂ひ梅雨きざす	ひらの浪子

青年部蒼年部句会 5回開催

◇鈴木しづ子顕彰いのちの俳句大会協賛

第六回「大学生俳句選手権」、九月九日犬山文化会館にて

グランプリ くたびれしバイト着たたむ夏の果 明治大学

第6回「小中高生俳句大会」 応募総数に二千四百九十二句。

大賞	小学生の部	玉虫の背中のかげら夕日散る	梶野いち華
	中学生の部	無造作に閉まる病室ヒヤシンス	尾部凜々子
	高校生の部	裏表なき座布団や終戦日	服部 亮汰

◇理事会

令和6年3月31日 名古屋市ウインクあいち 行事計画役割分担等

◇会報

令和5年	10月20日	発行	〈79号〉
令和6年	3月31日	発行	〈80号〉

(松末充裕)

関西地区

会長 久保 純夫

◇46回句集祭 令和5年12月2日(土)

奈良日航ホテルで開催。理事会、句集祭、懇親会を実施。参加者48名。

◇令和6年度総会 令和6年4月27日(土)

大阪市のホテルアウィーナ大阪で開催。

関西現代俳句協会の理事会(29名)・総会(46名)・久保純夫会長の講演「散策という名の旅—私の俳句工房」・懇親会(29名)を実施。11月16日(土)ホテル奈良日航で開催される全国大会に向けての協力を確認した。

◇吟行会

- ・和歌山海南市温山荘吟行 4月29日(土) 参加者17名 高点句から
さへづりを聞きわけてゐる楠大樹 金山 桜子
靴箱に靴が十七昭和の日 塩見 恵介
偏差値を競ふが如し松の芯 満田 三椒
亀鳴くを待てり西池東池 北岡 ゆみ
引き潮の磯巾着に頼みごと 西谷 剛周
紫蘭咲く足踏みミシンの革ベルト こにし 桃
つつじ燃ゆ庭に反る石伏せる石 志村 宣子
青石の橋を渡りぬかいやぐら 久保 純夫

- ・京都吟行 野風呂記念館 10月30日(日) 参加者 17名

参加者の代表句

- | | |
|------------------|-------------|
| 冬木の芽ふところに抱く神意かな | 鈴鹿 呂仁 (京鹿子) |
| 神の留守預かる句碑に一礼す | 杉井真由美 (京鹿子) |
| 子の腕に名を書くガザや冬の月 | 江連 彰子 (京鹿子) |
| 晩秋や神丘に逢ふ風の黙 | 北村 峰月 (京鹿子) |
| 京洛の真つただ中の秋惜しむ | 鷺山 珀眉 (京鹿子) |
| 御所堀を越える貴婦人小春蝶 | 北田せい子 (京鹿子) |
| 落莫の三高歌碑や秋終章 | 吉田 星子 (京鹿子) |
| どんぐりを踏んで足裏のおととつと | 西谷 剛周 (幻) |
| 小鳥来る近衛通に子の下宿 | 横田 明美 (幻) |
| 天高し外へ出たがる足である | 高木 泰夫 (幻) |
| 蔦枯るや寮の下宿の哲学書 | 赤窄 結 (幻) |
| 三尺の枯枝杖に吉田山 | 遊田久美子 (幻) |
| 着想の定まってくる紅葉かな | 岡田 耕治 (香天) |
| 草の実の賞味期限の迫り来る | 前塚かいち (香天) |
| 色づきてまだ枝にある木の実かな | 久保 純夫 (儒良) |
| 鈴鹿野風呂の墨書の掠れ草雲雀 | 金山桜子 (なんぢや) |

◇句会

- ・かみがた通信句会 6月締切 参加人数98名
応募句 198句 (結果と選者選評をホームページに掲載。)
- ・上方きめら句会 8月6日(日)午後7時開始 参加人数 30人
Zoomによる合評

◇青年部の活動

- ・関西ゼロ句会 5月20日(8名)、9月24日(18名)、1月28日(5名)、
3月10日(10名)、
- ・勉強会「関西俳句を辿る 桂信子 赤尾兜子 細見綾子を読む」(21名)
- ・対談「俳句の宛先」細村星一郎、曾根毅
- ・勉強会「関西俳句を辿る 桂信子 赤尾兜子 細見綾子を読む」

◇関西現代俳句協会会報の発行

第56号会報発行 令和5年6月1日発行

第57号会報発行 令和5年10月15日発行

(久保 純夫)

鳥取地区

会長 植垣 規雄

◇月例句会

第379回から390回まで原則毎月第一日曜日に開催。

◇会報発行

令和5年11月第53号、令和6年5月第54号を発行。本部事務局及び全国各地協会、角図書館等へ送付。

◇令和6年度総会

令和6年2月4日(日)鳥取市「高齢者福祉センター」於いて開催、議題につき審議され承認された。

◇令和6年度吟行句会(6月例会) 6月2日(日)開催

行先は鳥取県東伯郡三朝町。米子地区、倉吉地区の会員と合流し国宝投入堂、及び温泉街の三朝神社、キュリー広場他、この時期の河鹿笛を堪能。「三朝町文化ホール」に於いて句会。

〈当日句会抄〉

使われぬレンタサイクル走り梅雨	足立 六歩
混浴の河原風呂や河鹿鳴く	池澤 子鰯
キュリー像越え湧き上がる河鹿笛	石谷かずよ
消えかかる投入堂や青時雨	植垣 規雄
想い馳せる千戸の坊舎風薫る	岡 みずき
青葙や棚田の堰の連なりて	坂出 徹
ようこそとひと鳴き河鹿三徳川	坂岡 敏延
小満のラドンは廻る小宇宙	定久しず子
湯けむりと瀬音に触れて夏燕来	すむらのりこ
湯の里の昼餉たのしやわらび餅	中田 七重
傷つきし兵にも届け夕河鹿	平尾 隆実
アイリスの移ろい遙かキュリー像	藤原 博志
若葉照る投入堂や遥拝す	増井ゆり枝
三朝へと道標となる谷うつぎ	松島美佐子

◇第42回中国地区現代俳句大会

令和6年6月9日(日) 島根県担当、紙上句会

鳥取県関係入賞作品

〈秀逸賞〉

湖へ向く小さな本屋小鳥来る
朧夜や夢の世になほ夢を見て
〈鳥取県現代俳句協会会長賞〉
湖へ向く小さな本屋小鳥来る

石谷かずよ
中田 七重

石谷かずよ
(岡 みずき)

広島地区

会長 川崎益太郎

◇第41回中国地区現代俳句大会・総会 令和5年6月11日(日)

山口県が当番で、山口県周防市で開催予定であったが、コロナウイルス感染予防の観点から、紙上総会、俳句大会となった。投句数718句。

(広島県関係入賞者)

【俳句大会】

☆中国地区連絡協議会賞

鳥帰る見送るわれも過客なる

吉田 光山

☆優秀賞

上座とは寂しきところ鏡餅

石井 一石

☆秀逸賞

地球儀の北極いまも春埃

前原 俊伍

【勉強会】

実施しなかった。

◇第32回ヒロシマ平和祈念俳句大会 令和5年7月15日

第28回以来の集合しての大会として実施。全国各地から投句者248名、投句総数928句。投句総数928句。

事前投句分

【広島県知事賞】

黙禱の影より多き死者の椅子

秋田県秋田市

小林万年青

【広島市長賞】

ヒロシマの過去へ未来へ水を打つ

香川県高松市

島田 章平

【広島市教育委員会賞】

広島忌いつも誰かを探してる

山口県周防市

伊藤美恵子

【現代俳句協会会長賞】

終戦日鍬を杖とし黙禱す

山口県下松市

三野 公子

【広島県現代俳句協会会長賞】

広島忌誰も座らぬ椅子並ぶ

神奈川県伊勢原市

高梨 裕

【中国新聞社賞】

駄菓子屋に反核の旗蟬しぐれ

茨城県水戸市

北田 久雄

当日高点句

争はぬことが身上かたつぶり

広島県福山市

石井 一石

炎天や片足立ちの地球かな

広島県東広島市

竹味千賀子

◇第34回定期総会及び俳句大会 令和6年3月16日

広島市中区民文化センターで開催。

投句数306句。投句者72名。出席者17名。

総会は執行部提案議案等が承認された。俳句大会の結果は、次のとおりであった。

【大会賞】

振出しにもどれる遊びお正月 木村 幸枝
大どんど火は怒りとも祈りとも 林 すみ

【会長賞】

綿菓子のくるり陽を巻く小春かな 石原 孝人

【秀逸賞】

手の切れるやうな青空二月尽 亀井 福恵
幸不幸背中合せや日向ぼこ 藤本 陽子
夕映えと乗り合はせたる春一輛 品川 映子
出て来ない言葉がひよいと寒の水 西尾 智子

【当日の高点句】

探梅や句帳に挟む鳥の声 石原 孝人
永日や鈍感力といふ处世 亀井 福恵
勾玉は心の容^{かたち}桜咲く 竹味千賀子
白き雲あればなほよし日向ぼこ 品川 映子
(川崎千鶴子)

山口地区

会長 久行 保徳

◇第42回中国地区現代俳句大会

- 一 実施日 令和6年6月9日
- 二 場所 島根県現代俳句協会担当
- 三 投句数 563句
- 四 上位作品（山口県のみ）

中国地区連絡協議会賞

記紀の世から風吹いてくる蓮の花 河村 正浩
上流も下流も知らず水馬 三野 公子
花薊たっぷり摘んで反戦歌 楨田 敦子

優秀賞

指切りを離れたあとの余寒かな 阿部 友子
分水嶺越えて石州風光る 木村たけま
囀のその先帰還困難区 岡田 薫

秀逸賞

蜷汁濃厚父母の墓仕舞う 上野 昭子
酔でしめる魚に遠山しぐれけり 中塚紀代子
朝桜いづれは誰もゐない家 河野 悦子

島根県現代俳句協会会長賞

記紀の世から風吹いてくる蓮の花 河村 正浩

◇第34回山口県現代俳句大会

- 一 実施日 令和6年5月26日

二 場 所 周南市文化会館

三 投句数 256句

四 上位作品

現代俳句協会賞

戦無き七十九年畦を焼く

橘 美泉

毎日新聞社賞

かき氷溶けて無欲な水になる

藤井 康文

周南市長賞

とろとろと野火とろとろと母を焼く

上野 昭子

周南市文化協会賞

自転車を二台寝かせて春の土手

山根 志づ

周南文学連盟賞

生き抜いてもっとも端の日向ぼこ

上石久美子

山口県現代俳句協会賞

それぞれに生きて八十路の花衣

中田 裕子

◇第28回山口県現代俳句賞

「寄り道」 山縣 愁平（20句より抜粋）

少女らのはみ出している春の空

この先の鉄路は消えてかたつむり

◇第32回山口県現代俳句協会勉強会

一 実施日 令和5年10月11日

二 場 所 防府市「山頭火ふるさと館」

吟行地 防府天満宮

三 参加人数 14名

四 上位作品

賽銭はどんぐり三つ耕畝の忌

平川扶久美

いっぽんの道いちまいの秋の空

木村たけま

放浪のはじめの一步栗落つる

山縣 愁平

身に入むや丸いめがねに染みるもの

福田 美治

山頭火忌の水とうとうと流れ

藤井 康文

◇会誌発行

第88号 令和5年8月5日発行

第89号 令和6年1月20日発行

(平川扶久美)

徳島地区

会長 上窪 青樹

◇例会 実施日 令和5年7月30日

実施場所 徳島市 県立文学書道館

参加人数 23人

喉元の小さな嘘へソーダ水

松家 京子

土用照り潜水服が垂れてゐる

神野喜美女

腕時計はづして涼し余生かな
うなぎ焼く今日土用なる鐵工所
炎昼の無言無意識無関係

青木 慧
田村 素秀
松家 京子

◇吟行句会 実施日 令和5年10月29日

実施場所 藍住町薔薇園・吉野屋
参加人数 23人

人ごゑに少し離れて残る虫
徒長枝の悪魔の爪す秋の薔薇
どんぐりが秋の深さに落ちてゆく

松家 京子
上窪 青樹
吉岡えい子

◇忘年句会 実施日 令和5年11月26日

実施場所 徳島市 阿波観光ホテル
参加人数 29人

しがらみを捨てて裸木の独り言
ホロホロと酔いフワフワと落葉踏む

奈賀 和子
安曇 統太

◇会報発行 第11号

発行 令和6年3月1日
発行内容 令和5年度の活動記録等
会員数 69名

◇総会及び吟行句会 実施日 令和6年3月31日

実施場所 鳴門市 鳴門海月ホテル
参加人数 29人

汽笛鳴り紅い椿がまた落ちた
航跡もすぐ渦となる観潮船
春潮に置きざりといふ現かな

西池 冬扇
井形 順子
町田 美香

◇例会 実施日 令和6年6月30日

実施場所 徳島市 県立文学書道館
参加人数 19人

金文字の源氏十卷梅雨深む
ところてん全ては妻の言ふがまま
麦笛や嚙んではならぬニッキ飴

上窪 則子
山之口ト一
高木 閑人

◇その他の活動記録

★徳島県俳句連盟第60回大会

実施日 令和5年10月1日
実施場所 徳島市 県立文学書道館
応募句（俳句連盟賞）

天日へ松の歳月松の芯
真鍮の父の勲章昭和の日

松家 京子
K・ベック

当日句（四国放送賞）

今生を如何に生きむ月天心

住友セツ子

当日句（俳句連盟賞）

草の花週に一度の移動店
少年の頭上に空路草の花
蒼茫たる海や岬の草の花

吉岡えい子
高木 閑人
畑田 厚子

★夢道忌俳句大会

日時 令和5年10月9日

火矢に入る城址や風の花芒
藍の香はどこか母の忌夢道の忌
半纏の印働く松手入れ

原田 厚子
松家 京子
高木 閑人
(上窪則子)

愛媛地区

会長 松本勇二

◇第35回定時総会及び役員会

令和5年6月5日に書面会議用資料を全会員に送付した。結果、賛成多数で原案どおり承認された。

◇俳句大会

総会委任状に合わせて募集した俳句作品108句を特別選者16名が選出し、高得点者を表彰するとともに副賞を送付した。

高得点句上位三人（・特選五点、並選一点）

春日遅々ゴリラのように坐っている	大西 宣子	15点
飛魚の海の青さをうらがへす	片山 一行	14点
白玉やいつでも男やめてやる	井上 論天	13点

◇会報の発行

コロナ禍のため発行が遅れたが、令和6年10月15日、会報No.35号を発行し、全会員と関係機関へ発送した。

◇愛媛県現代俳句協会主催の俳句イベントの開催

令和5年12月10日、限られた時間でひたすら俳句を作り、その俳句の生まれる瞬間を共有する催しとして「俳句対局 現冬王 決定戦」を開催した。

・優勝 若狭昭宏 準優勝 安部奈月

同時に、北海道大学大学院調和系工学研究室が開発した俳句AIと人類の対局も開催し、僅差でAIが勝利した。対戦は多くの報道機関に取り上げられた。（於・坂の上の雲ミュージアム）

◇俳句大会後援

R6年3月3日、第38回富澤赤黄男顕彰俳句大会を後援し、会長が当日句選者として参加した。

◇協会賞・新人賞の募集と選定（令和6年3月30日）

令和5年度 愛媛県現代俳句協会「協会賞」「新人賞」の応募があり、各選考委員の選考により、各賞受賞となった。

・協会賞 藤田敦子 「兄がいた」50句
ティファールよやさしく歌え冬の朝
遺影みな正面を向く初明り

・新人賞 川又 夕 「やさしき馬蹄」30句
ほろほろとまぶしき馬蹄八重桜
野分立つ悪夢のおほき抜糸の日

(藤田敦子)

福岡地区

会長 福本 弘明

◇福岡県現代俳句秋の吟行大会の開催

令和5年10月15日(日)に、福岡市東区西戸崎の「海の中道海浜公園」で吟行俳句大会を開催し。参加者18名。

当日の入賞作品は

天賞	受付中秋風ばかり来るでない	黒川 智子
地賞	松ぼっくり蹴飛ばし冒険はじまりぬ	中西みつよ
人賞	松原を抜けた秋風につきあたる	山本 悦子
秀逸	コスモスや淋しい耳をそっと出し	田中 葉月
	漢の倭の奴国はここよ赤とんぼ	森 さかえ
	心中の海には空が高すぎる	福本 弘明
	流木のどこかやすらか秋の空	あいだほ
	秋の風とうとう海になったのだ	上野 一子
	コキアの赤中東に又戦の火	金子美智恵
	秋の蝶道案内の頼りなく	田中二史子
	飛行機もエイもクジラも秋の中	冬のおこじょ
	秋桜はしゃぎ足りない色のあり	堀川かずこ

◇福岡県現代俳句協会会報64号の発行

令和5年10月の吟行大会の報告、会員からの投句、特別作品、エッセー、会員の句集紹介などを主な内容として発行した。

◇総会ならびに福岡県現代俳句大会の開催

令和6年3月10日(日)福岡市の福岡県教育会館において令和6年度総会ならびに第32回福岡県現代俳句大会(後援 毎日新聞社・月刊「俳句界」)を開催した。参加者は33名。谷口慎也氏の講演「俳句形式と様式」を受けた。

〈大会賞〉

コート脱ぐわたしを脱げぬ影がある 下関市 墨海 游

〈毎日新聞社賞〉

手袋を脱いでこの世に手を還す 福岡市 大瀬益太郎

〈月刊「俳句界賞」〉

ひまわりの蕊の黒々ウクライナ 柳川市 鳥巢 徳子

〈秀逸賞〉

かいつぶり数え直してまた増えて 志免町 池田 康

よく食べてよく寝て孤独冬の雲 福岡市 土田 利子

うちの猫きていませんか花筵 久留米市 梶村 康

噴水の高きに風の濡れてゐる 太宰府市 山本 則男

神さまはゐません桜鯛きれい みやま市 森 さかえ

点滴の一語一語や寒夕焼 福岡市 山際はるか

着ぶくれて荷物のように腰おろし 北九州市 芳賀登喜子

〈佳作賞〉

礼状に五月の風を入れてくる 大川市 中村 和男

白南風になるまで少年ペダル漕ぐ 福岡市 水城千恵子

春来る見えないものの動き出す 北九州市 松尾 安子

蒲団干す間にも探査機月目指す	北九州市	末次	正
春泥を黙っておれずまた突く	福岡市	夏木	久
初雪やそれが汚れてゐやうとも	福岡市	小倉	斑女
元旦の陽にすき透る赤児かな	小郡市	中島	勝子
おしゃべりな電子レンジや女正月	北九州市	村田	規子
春風や「考える人」を考える	北九州市	原田	俊子

◇福岡県現代俳句協会会報65号の発行

令和6年5月に発行。3月の総会の報告、俳句大会の結果報告と、会員の自由投句5句と、前号作品評、会員特作20句、会員句集紹介などを内容とした会報を発行した。

(森 さかえ)

西九州地区

会長 前川 弘明

◇第70回長崎原爆忌平和祈念俳句大会後援

令和5年8月5日 長崎原爆資料館平和学習室にて。参加人数43名。

○募集句 投句数867句。当協会会員の受賞は以下の通り。

大会大賞

骨の音水の音する被爆の樹 藤澤美智子

長崎県知事賞

八月の一滴の水が哭くのです 小山 淑

西九州現代俳句協会賞

塵ひとつなく八月九日を掃く 倉田 明彦

優秀賞

みどりごに小さきこぶし被爆の日 横山 哲夫

○当日句

実行委員会賞

八月九日コトリとうごく生卵 前川 弘明

生きぬいて母は被爆の蝶見舞 小山 淑

陽光を終日拒み原爆句碑 横山 哲夫

◇西九州現代俳句協会総会句会

令和6年3月23日 長崎市(喫茶ミレー)にて5名の出席を得て開催。

○事前投句 事前投句数36句。

最優秀賞

青銅の龍の口より初手水 加藤 次郎

優秀賞

妻と吾と異なる故郷雑煮椀 小谷 一夫

優良賞

水仙を活けて浜辺の診療所 鳥井 國臣

一人居の母の小さき年用意 津田 番茶

◇会報の発行

令和5年5月28日

西九州現代俳句協会会報 No. 27 を発行。

(江良 修)

熊本地区

会長 加藤知子

今期のメインイベントは、当会が主管として4年ぶり対面での第14回九州現代俳句大会を熊本市で開催したことである。投句数は低調だったが、当日60名超の県内外からの参加者があり大盛況だった。その後の懇親会（30名出席）も西田和平事務局長の名司会ぶりで大変賑わった。投句料は、有用な賞品（句集・商品券）で還元する試みを行った（『俳句界』2024年1月号に報告記事）。他に特記する程の活動はなく、6月に動物園吟行（参加者6名）を行った。会報は24号～26号の3回発行した。

来期は、会長交代の予定。新会長に期待！

◇2024年度 現代俳句年鑑参加者の一句抄

星流るソーブランドの飼い猫へ	青島 玄武
片付けて夕べ明るき菫の花	荒尾かのこ
さえずりや椎骨三個増えている	加藤 知子
青野行く試歩の耳朶あつくして	志賀 孝子
地球儀に水を零して春の海	林 よしこ
スパムを絡め街につばめが巣をかける	中山 宙虫
弁当屋うな井かくも薄きもの	右田 捷明
群声の蟬に放水兩得す	汀 圭子

◇第60回現代俳句全国大会

〈参加者一句抄〉

一つ捨て友との絆晩夏光	荒尾かのこ
菊日和ガラシャ手水に映りこむ	加藤 知子
滝壺を出てから平家物語	西村 楊子
近付けば卑弥呼の消える花の下	林 よしこ
4Kにいつしか老いて蒸す小部屋	右田 捷明

◇第14回九州現代俳句大会 於：熊本市

〈大会大賞〉	いっぽんの葦が流れを変えている	林 紀子
〈優秀賞〉	尺蠖が測る方舟までの距離	柴田しのぶ
〈選者特選賞〉	冷房を点け要塞となりゆく子	吉良 香織
〈選者特選賞〉	若者ははるかぜのように好きと言う	林 よしこ
〈選者特選賞〉	濁り池鯉夕焼けの口開けて	初田ゆうこ

◇第59回滔天忌俳句大会 於：荒尾市

〈秀作〉	潮の目の横一文字滔天忌	荒尾かのこ
〈佳作〉	大陸を駆ける駿馬や冬北斗	徳山 直子

◇第32回ヒロシマ平和祈念俳句大会

〈特選〉	水葬は引揚げの棘敗戦忌	右田 捷明
------	-------------	-------

◇令和5年度山中湖俳句大会

〈入選〉	富士山を容れ夏の湖静かなり	貴田 雄介
------	---------------	-------

(加藤知子、貴田雄介)

宮崎地区

会長 山口木浦木

◇会のイベント

令和5年度誌上句会（令和5年11月）

令和6年度総会・新春句会（2月18日）

宮崎市で開催 参加者：25名

◇地区の句会の代表作品

第27回誌上句会（令和5年11月）

冬ぬくし四Bで書く母の文

藤 野々子

コンビニへ手押し車で秋の旅

鈴木 康之

次の日の我に置くメモ虫の夜

早稲田りょう子

冬禽の殺意に似たる羽音かな

岩切 雅人

離郷われ柚子湯に尾鰭置いたまま

長友 巖

若づくりこそ若さの秘訣革ジャンパー

妹尾 題弘

受けとめる暇なき落葉わが身世に

海蔵由貴子

ジェンダー論果てず蜜柑が二個転がる

長友 巖

令和六年度新春句会（2月18日）

箸の国豆をつまめる幸せを

梶原 敏子

うすらひやそろそろ終りにしませんか

佐藤 聡美

長き夜今終章のどのあたり

長友 巖

椿は赤恋の日も古希の日も

亀田りんりん

咲けよ水仙津波の丘の一面に

服部 修一

水仙花日本列島折れ易き

池水 侃

◇会報等の発行

会報60号 令和5年10月25日

巻頭随想「小島静郷と『鏝』のことなど」

令和5年度定期総会報告

会報61号 令和6年2月15日

巻頭随想「『少作少捨』で25年」

第27回誌上句会

（吉村 豊）